

祝 辞

〔平成二八・五・二七
旭川グランドホテル
日弁連定期総会における感謝・表彰式〕

本日、ここに、日本弁護士連合会の前会長、前副会長及び先進会員の皆様に対する感謝・表彰式が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

前会長におかれては、国民の期待に応える連合会の運営を通じて、多大な功績を残され、また、前副会長の皆様は、会長を補佐され、連合会の円滑な運営とその発展に大きく貢献されたと承知しております。各位の御在任中のお働きに対し、深く敬意を表します。

百歳表彰を受賞された方を始めとして、本日表彰をお受けになられた方々は、長きにわたり法曹として第一戦で活動され、その使命を果たしてこられました。本日の御栄誉は、そのような御貢献の賜にほかならず、心からお祝い申し上げます。

我が国において、社会経済を始めとした多くの分野で大きな変動が続く中で、司法が社会の安定を支える機能を発揮するためには、法による公平・透明で納得の得られる紛争解決の実現を通じて、社会に「法の支配」の理念を浸透させていくことが肝要であり、国民にとって身近な法曹である弁護士の方々に期待される役割は、極めて大きいと申せましょう。また、より身近で、頼りがいのある司法を築くことを目指した司法制度改革とその関連法制は、多くが定着、発展しつつあるとはいえ、取り組むべき課題もなお少なくありませんし、情報化の進展、国民の権利意識の高まり、価値観の多様なものに伴い、迅速で納得度の高い紛争解決が求められ、家族の在りようの多様化も、少子高齢化の進展と相まって、解決困難な紛争の増加をもたらしている現状にあつて、適切な対応を図るには、国民のための司法の実現という共通の理念の下、法曹三者が、率直かつ緊

密な意見交換を重ね、相互理解と協力関係を一層深めつつ努力を重ねていくことが必要です。加えて、東日本大震災からの復興が道半ばという状況の中で、先般、熊本地方での大地震が発生し、広範囲にわたって甚大な被害がもたらされたことについても、先の大震災の経験を踏まえて、復旧、復興に向けての取組の過程で生じる様々な法的問題への対応を通じて、早期の復興の実現に寄与していく必要があります。

本日表彰を受けられた方々を始めとして、弁護士各位におかれましては、今後とも、国民の期待に応えて、課題を抱える司法の健全な発展のために様々な形で力を尽くしていただくよう御期待申し上げますとともに、健康に留意され、ますます御活躍になられますよう祈念して、私の祝辞といたします。

平成二十八年五月二十七日

最高裁判所長官

寺

田

逸

郎